

# サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

## 結果報告書

タイトル	日本人による日本人のための OC 入門活劇～for students～
代表者	法学部 本田 彩
企画概要	若者に英語に親しんでもらおう！というもの。 具体的には、英語の会話劇を動画に撮って見てもらったり、実際に会話劇を体験してもらったりして、英語を感覚的につかんでもらおうというもの。
結果報告	夏休み中に動画を三本制作。 神山祭での部展にて、英語雑学クイズラリーを開催。動画公開。約 100 人の来場者。 京都産業大学附属高等学校にて、出前授業。 英語雑学マンガをニコニコ静画にて発表。 【京産生の日常】(英語と日本語の融合小説)を制作。
感想	時期尚早という言葉がまっさきに浮かぶ。 人脈を築いてからことを起こせば、端っから複数人でやっておけば、もっとスムーズに、企画内容が全て実現できていただろう。…そう思うと忍びない。 だがしかし、「なんかやりたい！」という気持ちで挑んだこの企画。反省はすることしきりだが、後悔はしていない。「自分がリスニングができないから、自分でも聞き取れるような英語教材を作りたい」紆余曲折はあっても、方向性が多少変わっても、この企画の根本は変わらなかった。 結局、私は、若者に「語学の楽しさ」と、「異文化との相互理解の大切さ」を伝えたかっただけだったのだ。動画作ってばらまく、のが目標だったけれど——今では、「教育の観点からは見られない英語の楽しさ」を、いかにして伝えるか、わかってもらえるかが目標になっている。スケールの広がり、主題の奥深さ——。 現実を知り、組織に飛び込み、多方面で動いている大人の声を聞くことで、それらが見えてきた。企画を立てた頃と今を比べると……本当に、何も知らなかったんだなと思ひ

知らされる。知識が増えるごとに世界は色を変え、姿を変えてゆく。本質は変わらないまま。私の世界は、企画とともに形を変えていった。根本だけは、揺るがないまま。私はこれからも、そうして世界を知っていくのだろう。

結論。この企画は私に色んな世界を教えてくれた。  
無駄な経験など、世界には何一つなかった。  
だから私は、この企画でしてきたことを——誇りに思う。